

サノックスの目安箱 「コロナと私」



第 020 号 2020 年 8 月 30 日 富澤英治

30 年前の夢

30 年程前、現役の頃の夢です。

職場には週に 2 日か 3 日ほど通い、残りは八ヶ岳南麓あたりの別荘で過ごしなが、花や昆虫と語り、自然の中を散策し、様々なことに思いを馳せる生活です。既にインターネットが普及しだしていた時代、世界の情報は自由にとることができ、ネットやメール等を通じて、多くの仕事が可能ではないかと考えていました。そんな生活を夢見ていましたが、友人たちに話すと、「家で仕事などできるわけない、サボりただけだろう」と笑い飛ばしながらの感想ばかりでした。

それが今では、コロナの影響で、「テレワーク」という流行りの生活スタイルです。コロナが終息したとしても、これからの世界は、皆が一つの職場に通い、同じ場所で仕事をするという形から、離れた場所でも仕事が可能というスタイルに変わるでしょう。ようやく私の夢見た生活が現実になりつつある思いですが、既にリタイアした身、通勤とは無縁の生活のいま、時代が遅すぎたようです。

コロナの悪い面ばかりではなく、それによって変化する社会にも目を向け、プラスに考えることも必要かと思えます。これから、更に社会がどのように変化していくのか、楽しみに見えています。

富澤英治 (自由人)